

【研究主題】 「考える力」を育てる授業の改善
～問題解決的な学習過程における手立ての工夫を通して～
【本校総合的な学習の時間が目指す「考える力」】
調査・体験をして得た情報を分類・関連付けなどをして自分の考えをつくり出す力

総合的な学習の時間指導案

平成21年11月10日（火）第5校時
5年1組 指導者 藤井 洋子

授業の視点

○同じ小課題で追究している児童同士で意見交流をする場面で、質問をしたり、友達の考えと比較をしたりしながら進めていったことは、小課題についての自分の考えを広げたり深めたりする上で効果的であったか。

I 単元名 お米 再発見！

II 考察

1 児童の実態（男子9名、女子12名 計21名）

(1) 関心・意欲・態度

4年「発見！カイコのひみつ」「もっと知りたい！季節の行事」では、養蚕業や季節の行事について学習したが、カイコや地域の年中行事などの調査対象に進んでかわり、興味や関心を持続させながら課題解決に向けて取り組むことができた。また、地域の人との交流や調査活動を通して、地域の産業・行事には人々の思いや願いが込められていることに気づき、「色々な行事をずっと伝えていきたい」「生き物を大切に育てたい」など実践への意欲をもつことができた。

事前調査では、米作りに関する経験が全くない児童は12名と半数以上であったが、「ご飯が好き」と答えた児童は20名であった。また、田植えなどの体験活動やインタビューなどの調査活動を楽しみにしている児童が13名いることから、米や米作りについての調査・体験活動を適切な場面に設定することで、興味をもって主体的に追究させていくことができると考える。一方で、安全な米作りについては、「関心があまりなかった」「全くなかった」と答えた児童が合わせて14名おり、食の安全にまで目を向けている児童は少なく、関心が低いといえる。

(2) 思考・判断

これまでの情報の整理・分析は、KJ法と観察カードを基にした活動が中心であったが、情報相互の関連をとらえたり、因果関係を考えたりする能力については個人差が見られる。調査・体験から得た情報を基に分かったことを考えられる児童は16名いるが、多面的な考え方ができる児童は少ない。収集した情報を基に課題に対する自分の考えをもつことについては十分ではなく、考えが感想になりがち傾向がある。また、教師の支援がないと思考が進まない児童が数名見られる。

考えを交流する中で友達の考えのいいところに気づき、自分の考えに取り入れながら深めていくことについては、身に付いてきている。

(3) 技能・表現

4年「もっと知りたい！季節の行事」では、関連資料を図書館で収集したり、家族や親戚から話を聞いたりして必要な情報を集めることができた。まとめ方に関しては、ポスター・新聞・紙芝居が多く、大きく見やすい字や図を入れるなどの工夫が見られた。発表では、ポイントを絞ってはっきりと伝えることを意識して取り組む児童が多かった。

(4) 知識・理解

もみ・脱穀・精米等、米や米作りに関する言葉は、約半数の児童は知っていたが、米の作り方をよく知っている児童は少なかった。米からできる物については、お餅（19名）パン（9名）せんべい（7名）だんご（3名）の4種類のみが挙げられ、米のよいところは、おいしい（8名）栄養がある（5名）が挙げられた。米作りに関しては、多少の知識はあるが、米そのもののよさや加工品についての知識はあまりないといえる。1学期の社会科で「わたしたちの生活と食料生産」の学習をしたが、土地の条件を生かした米の産地のことや国内の米の自給率が高いことについては理解できている。

2 単元について

(1) 児童の実態や地域・人材を生かす

子どもたちは、ご飯を食べることが好きであるが、半数以上の児童に米作りの体験がなかったり、米に関する知識も乏しかったりする実態から、興味をもって進んで追究できる身近な学習対象になると考えた。また、本校では、2年前から隣接する利根実業高校の水田を借りて米作りを行ってきている。そこでは、食品文化コースの先生や生徒たちと交流をしながら、米の作り方を学ぶことができる。本校の学区域内では、畑と比べて水田は少ないが、沼須町、栄町、上沼須町には多く見られ、昔から米作りをしている農家の人がいる。児童は、地域の人たちから米や米作りに関することを教えていただき一緒に課題を解決していく中で、専門的な知識や技能をもった人たちとふれ合ったり、地域の人々の工夫や努力、温かさに気付いたりすることによって、自分の考えを広げ、深めていくであろう。

(2) 米のよさ

米は、わたしたち日本人にとって主食であり、郷土料理も昔から色々考えられ、一番身近な食べ物である。米の主成分は炭水化物であるが、タンパク質においては、他の主食となる穀物と比較して、体の維持・成長に必要な必須アミノ酸が多く、栄養的に優れている。米を中心とした食事は健康食として注目を集めるようになってきているし、最近、加工食品や様々な面で利用されている。また、稲からできるわら・もみ殻・ぬか・灰も活用され、自然界の物質の循環の巧みさも学ぶことができる。

利根沼田地域で作られている米の種類は、コシヒカリ「田んぼの王様」が多い。この地域のコシヒカリ「田んぼの王様」は、全農を通じて販売され、人気上昇中である。理由としては、良質なわき水で育てられていることや米所として有名な魚沼地区に似ている気候など自然条件が良いことが挙げられる。

米作りや米に関する学習は、長期にわたって行われるが、自然や環境、食の安全・健康・農業問題など様々な学習の要素が含まれている。例えば、食の安全では、外国産の事故米の問題から国内や地域産の米が安心だから買った方が良くと考え、他の食品についても農薬の害などの心配のない食料づくりや食品選択について考えるであろう。また、農業問題では、専業農家が少なくなり、後継者がいないという問題があり、この解決のために自分にできることは何かを考えさせたい。これらの学習を行うことで、児童が自分の生き方を考えることにつなげていくことができる。

(3) 単元の構想

本単元は、75時間で1つの単元であるが、児童の意識の流れを踏まえて探究活動を発展的に繰り返していくために、大課題を2つ設定する計画を立てた。

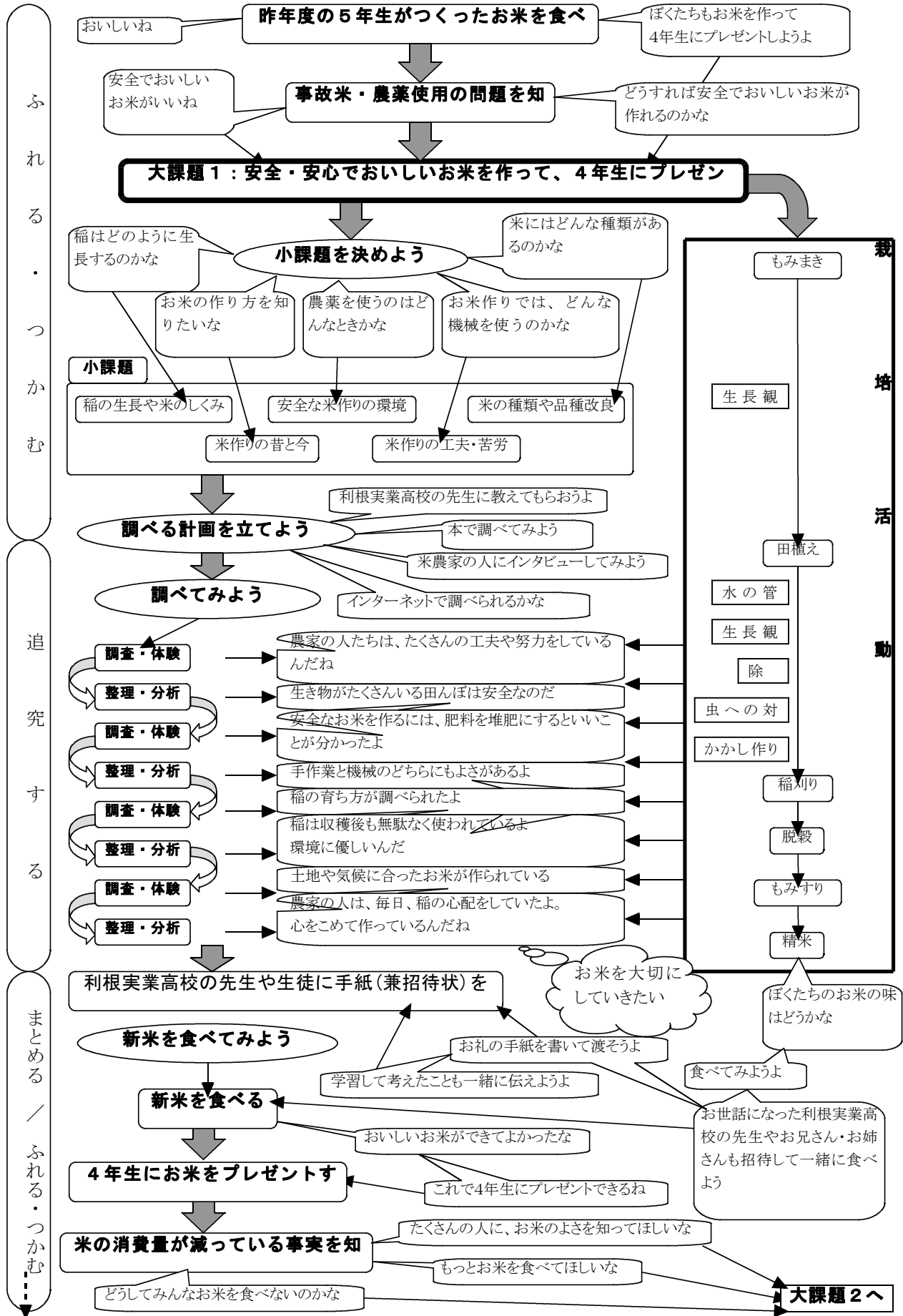
大課題1では、昨年度の5年生が作った米を炊いて食べる・種まき・苗の観察などの体験活動によって、児童が「米を作りたい」「米や米作りについて知りたい」という思いをもち、「米作り」に関する課題を設定していく。「米作り」の追究過程では、長期間の調査・体験活動で情報量が多くなるので、稲作仕事の内容で4つの区切りを設けて、情報の収集→整理・分析を繰り返していく。このことで、よりよい活動を考えたり、多面的に捉えながら自分の考えを構築したりしていくことができる。また、情報の収集では中学年で学んだことを生かして進めることができる。さらに、他教科等の学習やKJ法を活用させることで、目的に応じて情報を整理・分類する力も身に付けさせていきたい。米作りの活動の「まとめ」として、利根実業高校の先生や生徒に対して、自分たちの追究の成果やお世話になったことへの感謝の気持ちを記した手紙を書くことで、自分の学びや成長したことを自覚できる。

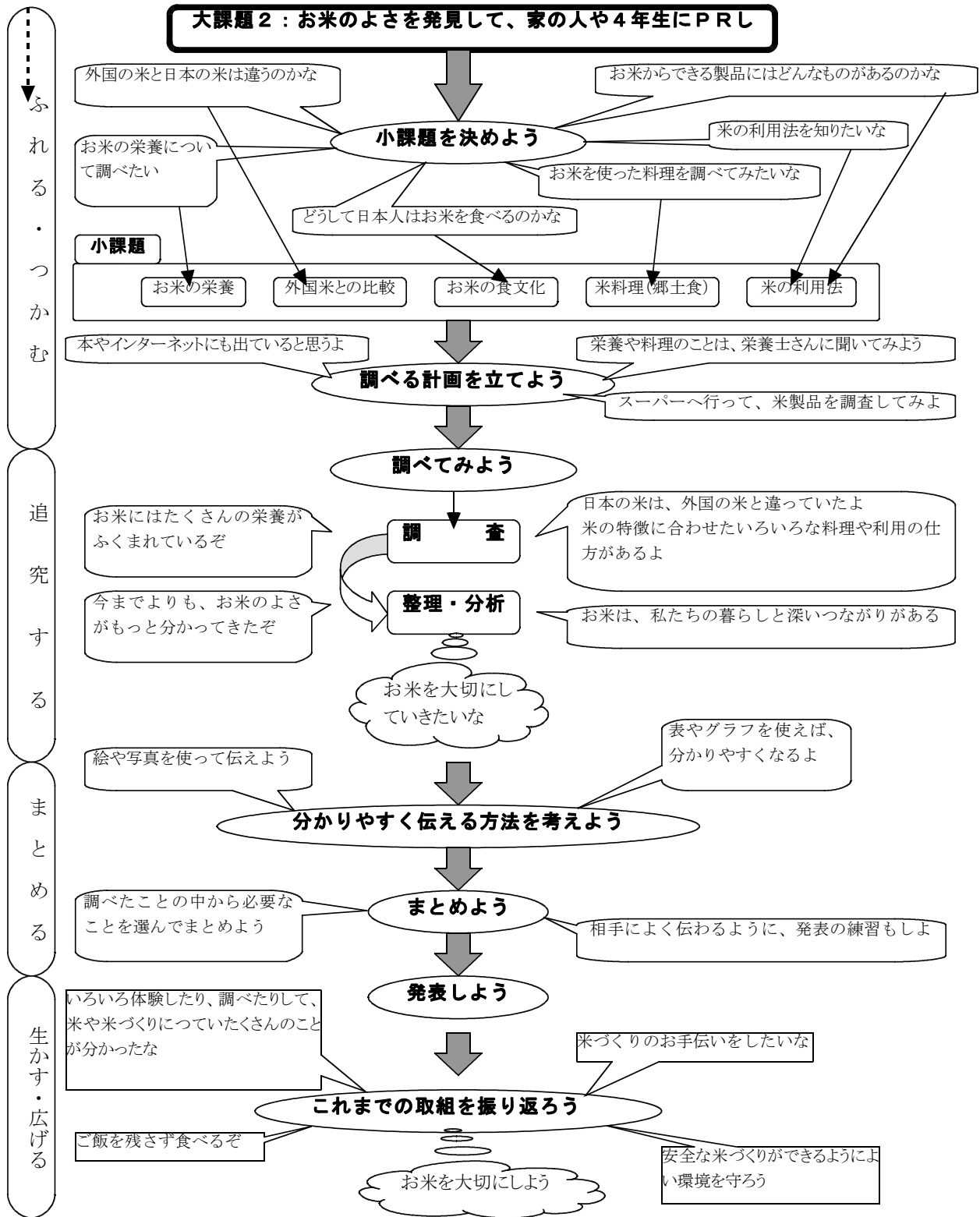
大課題2では、収穫した新米を食べ、そのおいしさを実感した上で、お米の消費量が減っているという問題点に気付く活動を設定し、児童が「お米のよさを伝えたいという思いをもち、「米のよさ」に関する課題を設定させたい。このように探究的な活動を発展的に繰り返していくことにより、児童は、米作りの大変さや農家の人の思いを感じ取ったり、米作りが良い自然環境づくりになっていること、自分のくらしと深く関わっていることなどを学んでいき、お米を大切にしていきたいという考えをもつようになると思う。2回目の「まとめ」では、米作りやお米のよさを、PRする相手を意識しながら表現方法を工夫させたい。

「生かす・広げる」過程では、単元全体の活動を写真やポートフォリオで振り返って、今後の自分の生活と結びつけて考えさせ、地域の一員としてできることを実践しようとする態度を育てていきたい。

以上のような学習活動を通して、本校の総合的な学習の時間で目指す児童像にせまることができると考える。

「お米 再発見！」単元の構





3 校内研修との関連

○本校の総合的な学習の時間について

- ・学習過程を「ふれる・つかむ」「追究する」「まとめる」「生かす・広げる」とし、問題解決的な学習活動を発展的に繰り返していくことで、本校の総合的な学習の時間で育てたい資質・能力・態度を身に付け、目指す児童像に迫っていきたいと考えている。さらに、それぞれの過程の中で、特に思考・判断に関わる活動において、本校の総合的な学習の時間が目指す「考える力」である「調査・体験から得た情報を分類・関連付けなどをして、自分の考えをつくり出す力」を育てていく。

○本校の総合的な学習の時間における「『考える力』を育てる授業の改善」について

- ・「ふれる・つかむ」過程では、児童が「ひと・もの・こと」とかかわる中で課題について考えたり、自分の課題に合わせて追究の計画を立てたりする。ここでは、課題につながる体験活動を意図的に設定して、児童の認識とのずれを感じられるようにし、学習対象に出会えるようにする。また、KJ法を活用したり課題を吟味する視点を設定したりして、児童の課題意識を高めていく。さらに、予想を基に解決の見通しをもつ活動を通して追究への意欲を高めていく。
- ・「追究する」過程では、児童が様々な方法で調べた情報を分類したり関連付けたりしながら、課題について多面的に考えるとともに、他者との交流を通して、自分の考えを広げたり深めたりする。ここでは、協同して取り組む学習活動や、確かめ、深めるための体験活動を設定し、児童が他者と協力したり実際に体験したりしながら、課題の解決に必要な情報を収集できるようにする。また、KJ法や表・グラフ・児童のポートフォリオを活用することで、整理・分類しながら自分の考えをもてるようにするとともに、考えの根拠を明確にした上で交流することで、考えを広げたり深めたりできるようにしていく。
- ・「まとめる」過程では、課題に対する結論を考えたり、伝える相手に応じた表現方法を考えたりして、自分たちの考えをまとめていく。ここでは、事実や結果の理由付けを促す発問や助言を取り入れ、児童が自分なりの結論を導き出せるようにしていく。また、伝える相手を明確にするとともに、既習の表現方法や新たな表現方法を例示することで、相手意識をもって表現できるようにしていく。
- ・「生かす・広げる」過程では、課題を自分の生活と関連付け、自分にできることを考えて実践する。ここでは、自分の取組や自分自身について振り返る場を設定することで、自分にできることややらなければならないことについて考えられるようにする。また、実践に対する他者からの共感や賞賛を得られるようにすることで、成就感や達成感をもてるようにする。
- ・これらの過程を踏まえ、児童の意識の流れを想定しながら、単元を構想していく。

○本単元における「『考える力』を育てる授業の改善」について

- ・「ふれる・つかむ」過程では、課題につながる体験活動として、昨年度の5年生が作ったお米でご飯を炊いて食べる・種もみをまく・稲の苗の観察を行う。
- ・「追究する」過程では、協同して取り組む学習活動として、地域の人や友達と追究していく。また、参考となる資料の活用として、考え方の例示を行う。
- ・「まとめる」過程では、既習の表現方法の例示として、昨年度の児童の作品を紹介する。
- ・「生かす・広げる」の過程では、取り組みや自己を振り返る場として、これまでの活動の流れが分かる写真入りの掲示物やポートフォリオを見直ししながら、今後を生かせることを考え発表し合う活動を行う。

4 指導の方針及び学習活動の支援

○単元全体を通して

- ・長い時間数の単元となるので、体験活動や調査活動において、常に課題を振り返らせることで、目的意識をもって活動に取り組めるようにする。また、稲の栽培活動、地域の人へのインタビュー、昔の道具を使う体験、調理や食べることなど実感を伴い他者とふれ合うような体験を適切に取り入れることで、児童の追究意欲や主体性をもたせていきたい。
- ・学習シートに書く活動を多く取り入れるとともに、学習シートの形式を工夫し、活動の計画を立てたり、自分の考えをもち、深めたりするために生かしていきたい。調査の記録は、記録カードに記述するが、短い文や図などで書けるように指導する。また、学習シートと資料、記録カードは、ポートフォリオとしてファイルに綴じて保存し、後で見直して活用できるようにする。

- ・道徳の「自然愛、環境保全」「郷土愛」などの価値項目との関連を図り、道徳のねらいを達成することにも生かしたい。
- 各過程において
 - ・「ふれる・つかむ」過程では、昨年度の5年生が作ったお米を炊いて食べる際に、児童に感想や気付いたことを発表させ、こんなおいしいお米を作りたいという思いをもたせる。また、最近問題となった事故米や農薬についての資料を提示することで、「安全・安心なお米」にも着目させ、大課題1が設定できるようにする。さらに、小課題づくりでは、課題づくりの視点を教師と児童と一緒に考え、理由を明確にしながらか大課題1につながる具体的な課題がつけられるようにする。
 - ・「追究する」過程で、情報の収集を行う際には、グループの中で役割を分担するなどして、友達と協力し合って情報の収集活動に取り組めるようにする。また、関連する教科の授業で使用した資料を振り返ったり、学習内容を想起したりして、これまでに学んだ知識・技能を活用して、学習を進めていけるようにする。米作りの作業では、利根実業高校の先生や生徒に協力を依頼するとともに、事前に詳しい打ち合わせをして共通理解を図り、ねらいに沿った学習活動ができるようにする。また、農家の人にはこの地域での米作りについての質問に答えていただくよう依頼しておく。さらに、利根実業高校での米作りや見学、農家の人への質問をするときは、高校の先生や生徒、農家の人などとの温かい交流体験ができるように、礼儀や質問の仕方も事前に指導しておく。このような活動によって、異なる見方や他者のよさを発見しながら問題の解決に迫りたい。
 - ・「追究する」過程で、情報の整理分析を行う際には、中学年で学んだ KJ 法や他の教科の学習を生かしながら思考・判断の力を身に付けていくようにしたい。また、調査したことから一人一人が自分の考えをもつことができるように、考え方の例示をしたり考える視点をもてるようにしたりする。その上で、同じ小課題の児童同士や全体で考えを交流する場を設定し、異なる見方や他者のよさを発見しながら、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしていく。考え方の視点は、児童が安全な米作りや米の大切さ、地域の人の知恵と努力に気付いていけるような内容にする。
 - ・「まとめる」過程では、伝えたい内容や相手をはっきりし、相手意識や目的意識をもてるようにするとともに、それに合った表現方法が考えられるようにする。
 - ・「生かす・広げる」過程では、ポートフォリオを基にこれまでの取組や自分自身について振り返ることで、自分が学んだことや成長したことを実感するとともに、それらを根拠として、地域の中で実践できることを考えるようにさせたい。また、発表会では、地域の人達から褒めたり励ましたりしてもらうことで満足感がもてるようにしたい。

5 授業中における生徒指導上の留意点

○多面的な児童理解

- ・学習シートへの記述・活動の様子・相互評価から、児童のよさを多面的に理解するように心がける。
- 自己存在感・自己決定の場の設定について
 - ・学習課題に対する考え、意見をもつ場や時間を確保したり、それに対して個別に支援したりすることにより、できる限り児童が自己決定できるようにしていく。

○共感的な雰囲気作り

- ・教師が児童一人一人の考えを尊重するとともに、児童が互いの考えのよさを認め合えるような授業の雰囲気作りに努める。

IV 本時の学習

- (1) ねらい 稲刈りから精米までの調査・体験から得た情報を基に、小課題について自分で考えたことを、友達との意見交流で深めることができる。
- (2) 準備 教師：学習シート、10月の調査・体験の写真、大課題1が書いてあるカード・意見交流の進め方カード（児童用・掲示用）、付箋
児童：総合のファイル、整理・分類した資料、前時の学習シート
- (3) 展開

過程	学習活動と児童の意識	支援及び指導上の留意点	時間	評価項目
つかむ	<p>1 本時の学習課題と活動について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>班の友達と意見交流をして、小課題についての自分の考えを見直そう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・色々調べてきたんだな。 ・友達は、どんな考えをもったのか知りたいな。 ・話し合いで自分の考えをもっと深めていきたいな。</p> </div> <p>2 各自で、整理された情報や自分の考えを見返す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《各児童の考え》</p> <p>・残ったわらやもみ殻、ぬかは捨てられずに生活に役立っているんだな。米作りは環境にやさしいよ。 ・害虫や病気から稲を守るためには、必要最小限の農薬を使うことも必要だな。 ・自然乾燥は、手作業で大変だけれど、心がこもった米ができるような気がする。 ・農家の人是一年間大変な思いをして米作りをしてきているから、米を大切にしたい。 ・その土地の自然条件を生かして作物を作る知恵はすばらしいと思う。</p> </div>	<p>・本時は、学習シートに書いた自分の考えを見返した後、友達と意見交流をし、もう一度自分の考えをまとめることを知らせる。</p> <p>・課題解決に向けての活動の流れが分かる掲示物を見て確認することで、考えを交流する必要感がもてるようにする。</p> <p>・前時に書いたものが小課題に対する考え方の視点に合っているか、付けたすことはないか、考えの根拠は何かという観点で、教師のコメントを参考に見直させる。</p> <p>・小課題に対する考え方の視点の例として、「機械を使うのと手作業ではどちらが良いか」「農薬を使うことに賛成か反対か」などが挙げられる。</p> <p>《小課題》</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>①収穫後の稲の利用と米やご飯になるまで ②安全な米作りの環境 ③米作りの昔と今 ④米作りの工夫・苦労 ⑤米の種類と適した自然条件</p> </div>	5分	
	<p>3 同じ課題を追究している班で、考えを交流し合う。</p> <p>◎進め方</p> <p>①自分の考えを発表する。 ②聞いている人は、質問をする。 ③意見（相違点・良いこと・付け足したいこと・新しい考えなど）の交流をする。 ④意見の中で大事だと思うことをメモする。</p>	<p>・意見交流の進め方や留意点について掲示用の「進め方カード」を使って確認をする。また、各班でこのカードを活用して、意見交流がスムーズに進めていけるようにする。</p> <p>・友達の考えは、学習シートにメモを取り、自分の考えと比べながら聞くことができるようにする。</p>		

追 究 す る	<p>《深まった児童の考え》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 稲は、いろいろな利用されて土に返るから、環境に良いと思う。 ・ 農薬はできるだけ少なくして、人間や生き物が安心して生活できる自然環境を作ることが必要だな。 ・ 米作りを工夫してきた地域の人の知恵や、米を大切にしたい気持ちを受け継ぎたいな。 ・ 米作りは、とても大事な仕事。もっと、みんなによく知ってもらいたいな。 ・ おいしいお米ができる自然豊かなところだから、この地域やお米を大切にしたいな。 	<p>《主な個別の支援例》</p> <p>① 質問に答えられない児童には、具体的な例を挙げて答えられるようにする。</p> <p>② 意見が考え方の視点からずれた児童には、小課題の答として適切になるように助言する。</p> <p>③ 考えの比較が良くできない児童には、メモをよく見て考えさせる。</p> <p>④ 積極的に交流している児童には、異なる視点からも、考えてみるように助言する。</p> <p>・ 班ごとの話し合いの様子を見取り、焦点を絞って意見交流できるようにさせ、比較・関連付け・新たな視点（考え方の視点）をもつなどして考えられるように、助言していく。</p> <p>※考え方の視点は、別紙資料参照</p>	35分	〈思考・判断〉 小課題に対する自分の考えを、友達との交流で深めている。 (観察・学習シート)
	4 交流したことを踏まえてもう一度自分の考えを書く	・ 学習シートのメモを読み返し、取り入れたい考えをはっきりさせながらもう一度自分の考えを書くよう促す		
ま と め る	5 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境のことについてよく考えられたな。 ・ 他の人たちは、どんなことを考えたのかな。 	・ 考えが深まった児童を意図的に指名して発表をさせ、自分の考えをしっかりと見直せたことを賞賛することで本時の学習の成果を自覚できるようにする。	5分	

【板書計画】

安全安心で、おいしいお米を作って4年生にプレゼントしよう。

めあて

班の友達と意見交流をして、小課題についての自分の考えを見直そう。

意見交流の進め方のカード（掲示用）

小課題に対する考え方の視点

活動の流れ

○自分の考えをもつ
↓
○班で意見交流をする
↓
○自分や班としての考えを深める
↓
○他の班に伝える内容を整理して、全体で交流する。

調査・体験の
写真

写真

写真

写真